

平安京右京六条二坊・西堀川跡 現地説明会資料

2007年6月23日

調査地：京都市下京区西七条御前田町、右京区西院南高田町

調査期間：2007年3月29日から継続中

調査面積：1区 約840㎡ 2区 約490㎡ 計約1330㎡

調査主体：財団法人 京都市埋蔵文化財研究所 (<http://www.kyoto-arc.or.jp/>)

はじめに

この調査は、国道9号（五条通）拡幅工事に伴うものです。調査地は、平安京右京六条二坊六町・十一町・西堀川小路にあたります。

平安京には、東西に二つの堀川小路がありましたが、今回は西の堀川小路を発掘調査しました。小路は幅四丈（約12m）とされていますが、この堀川小路は中央部に堀川が流れているために、大路と同様の八丈（約24m）の幅となっていたことがわかっています。

調査の概要

今回の調査では、平安時代前期の遺構を検出しました。街路関連では、西堀川小路の東築地跡・東側溝・東路面跡・西堀川など、六町内では築地内溝・建物・井戸・土壇などを発見しました。

西堀川小路の東築地跡 中世に削平されていますが、溝223と溝222との間が築地部分にあたります。

東側溝223 南北方向の溝です。幅約1.5m、深さは0.2mです。

東路面跡 南北方向の東側道路跡です。幅は約6mあります。上部が削平されたため、路面敷は残っていません。

川跡170 南北方向の川跡です。幅約14~16m以上、深さは約1.1m。東肩部は、ほぼ推定位置で検出しましたが、西側は大きく拡がり、西築地の推定位置付近までたっしています。川跡には黒色系の泥土が厚く堆積しています。南側の川底部で銭貨（延喜通寶）が9枚出土しました。

内溝222 六町内の南北方向の溝です。幅約1.3m、深さは0.1m。築地塀に並行して掘られており、宅地内の排水を行うとみられます。

建物跡 多くの柱穴を検出しました。建物を構成すると考えられますが、規模や配置は今後の検討といたします。

井戸4・7 六町内で2基検出しました。ともに井筒は、木枠で横棧縦板組です。4の底部には曲物を設置しています。（図2参照）

むすび

今回の調査では、西堀川小路に関連する遺構などを検出できました。

- ・東側の側溝、路面、さらに西堀川の東肩が良好に遺存していました。
- ・川底から出土した延喜通寶は、水辺で行われた祭祀儀礼によるものとみられます。
- ・六町内では、築地内溝・建物・井戸2基・土壇などを検出しました。

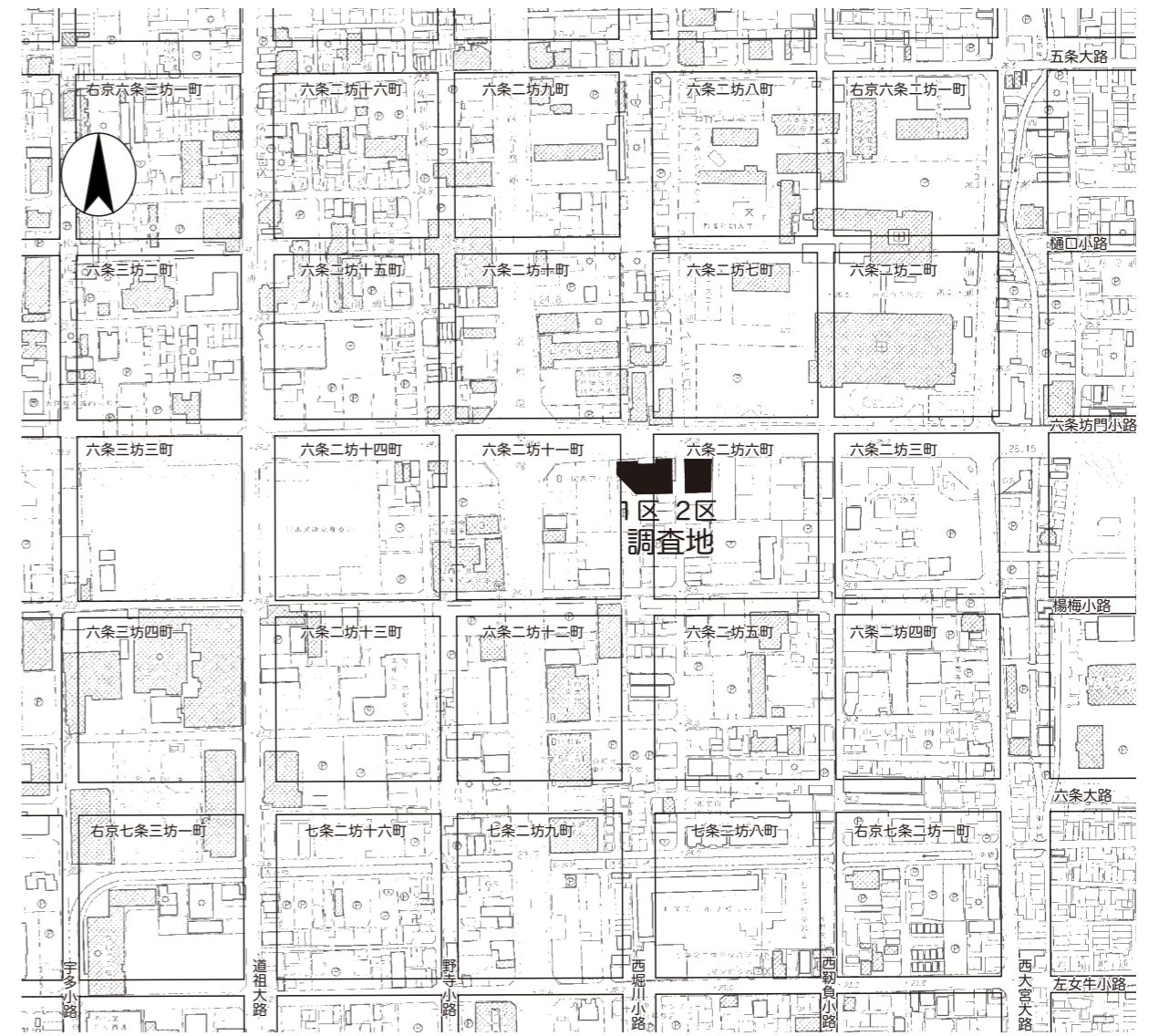


図1 調査位置図(1:5,000)

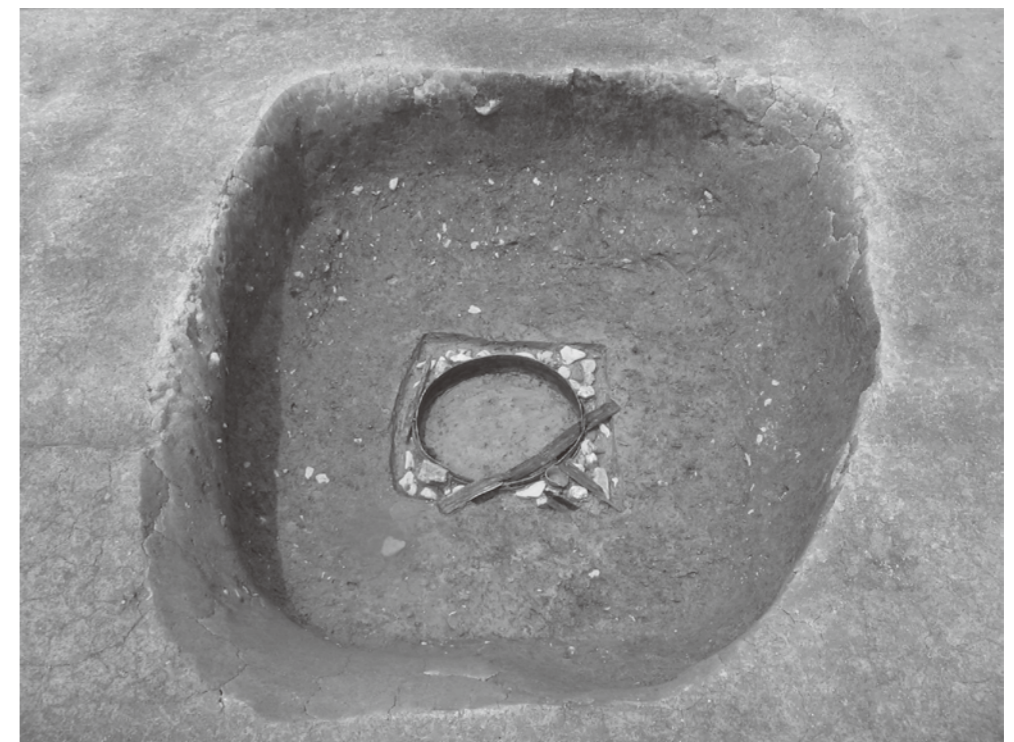
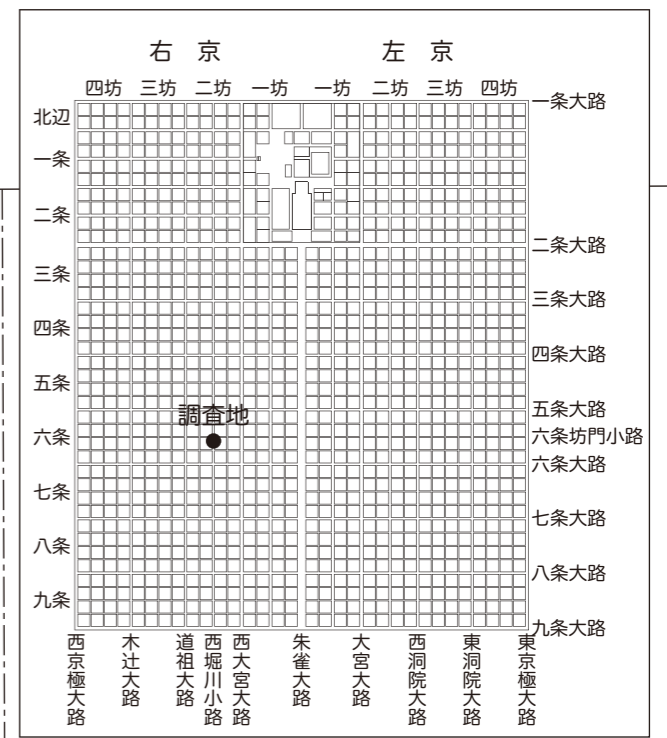


図2 井戸4(東から)



六条坊門小路



東一行
右京六条
二坊十一町
北門

東四行

右京六条
二坊六町

西堀川小路(8丈)

Y=-24,380

Y=-24,360

Y=-24,340

Y=-24,320

北門

川170
(西堀川)

井戸4

北三門

溝3

井戸7

X=-111,350

北四門

西築地

東築地

溝223

溝222

溝219

土塋5

土塋6

コンクリート
攪乱



図3 調査平面図